

共通科目		行動科学特論 Advanced Study & Research for Behavioral Science and Social Epidemiology		開講	毎年・隔年
				区分	選択
単位	1 単位	科目責任者	園生雅弘 教授（板橋・神経内科）	授業形態	講義・演習

概要	人々の健康状態を評価しその理論モデルを構造化するための基本知識を網羅する講義を行う。疫学研究を実証的に進めるために必要な概念や手法を学ぶ。
到達目標	・社会階級、性別、貧困、収入格差、ソーシャルネットワーク/サポート、コミュニティーの結束、心理社会的な仕事環境、近隣関係など社会的要因が人々の健康に及ぼす影響について理解する。 ・上記の考え方をを用いながらハイリスクアプローチとポピュレーションアプローチを説明し、コミュニティーレベルの健康決定要因、ソーシャルキャピタル、職場ストレスモデルなどに基づいた人々の健康問題への介入方法を提言できるようになる。
後学修事前	・事前にテキストや講義用資料が専用HP上に公開される。 ・当該期間に15時間以上の予復習が必要。
評価方法	授業における議論への参加度(50%)、最終の口頭試験(50%)
教科書・参考書	(教科書) ・Berkman LF & Kawachi I (eds). Social Epidemiology. New York: Oxford University Press, 2000. (参考書) ・講義で紹介する。 ・カワチ イチロー. 命の格差は止められるか: ハーバード日本人教授の、世界が注目する授業, 小学館101新書, 2013年
履修上の注意事項	・試験(最終日の午後予定)やレポートに対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。 ・この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。 (※)担当教員については変更となる場合があるが、その場合は記載がある予定教員と同等レベルの教員が任命される。
オフィスアワー	園生雅弘

No.	月日	時間	講義タイトル	担当者	備考
1	1月中旬		健康の社会決定要因の概説	Ichiro Kawachi (公衆衛生学研究科・客員教授)	大学棟本館 1F105教室
2			社会経済状態、測定と原因とみなせるエビデンス		〃
3			収入格差と健康		〃
4			ソーシャルネットワーク、ソーシャルサポートと健康		〃
5			ソーシャルキャピタル、社会の結束と健康		〃
6			心理社会的な仕事環境と健康		〃
7			行動経済学と公衆衛生		〃
8			健康格差の是正:政策の観点から		〃
その他の演習・セミナー等		・各回終了後には、日本人教員とTAによる補講が行われる。			

※講義日程の変更・追加の連絡等がある場合、登録されているメールアドレスに連絡します。

※この科目は、1月に開催されるハーバード'特別講義'になります。詳細は事務部までお問い合わせください。